

せ ん ぼ 通信 No.30

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「種」

茨城近代美術館・河口龍夫さん作 「蓮の種」
その作品は、ふすま大の大きさで、大きな蓮の葉から細い茎が下にのびて、全体が真っ黒で不気味…。 学芸員さんに聞いてみたら、「板の上に蓮を置いて…その上から鉛で」と。あ〜これは鉛の色だったのですね。 種はどこに？「ここです」。その種は1.5cm位の大きさで、茎の脇の下の方に落款(印)のように置かれて。

河口さんが、作品を鉛で覆うようになったのは、チェルノブイリの原発事故。「生命や生態系に異変をおこす放射能」、それを遮断する「鉛」。この事故以来、「遠い未来…何らかの理由で、地球上の植物が死に絶えても0.3ミリの鉛に守られて、生き続けてほしい」と。蓮をつかった作品は…3千年前の蓮の種」が発芽したという、ニュースから。

さすが…芸術家の想像力…創造力…。

【ノルウェー・スピッツベルゲン島にある貯蔵庫
将来の気候変動…自然災害に備え、凍った地面の岩盤をくりぬいた、巨大な冷蔵庫に、麦や豆類など80万種を超える、世界の食用植物の種子が保存されている】…そうです。

「春の種は…まだ？」とお客さま。

ああ…すみません…今、倉庫からだしてきますね。

(去年のうちに、直送されているのに…)

そういえば…畑もふんわり耕されている。

のろのろしている間に、まわりは…もう春。

冬眠から目がさめないようなボーは、私だけ…

朝5時…市場へ行こうと、車に近づくと、

「ホー ホー ホッホー」と、ふくろう…が。

「きーつけていってこー」と、いわれたような気がして、

うん…いってこつから…と、

両手で…自分のほっぺたをパンパン…。

新しい春が…みなさんに…良い春ですように。

3・11震災後作られた名曲の一つ
南相馬市立小高中学校H24年度
卒業式の曲 「群青(ぐんじょう)」
原発事故の避難で仮設の中学校へ
音楽の先生が、卒業生達の言葉をつ
なぎ、卒業式のために作詞・作曲。
津波のことばも…原発事故のこと
ばも…使われていないけど、

犠牲になってしまった友

避難で、散り散りになった友

帰れないふる里

それでも…空はつながっている

群青の絆でつながっている

「また…群青の町で会おう」

と、いう15歳の思いがいっぱい。

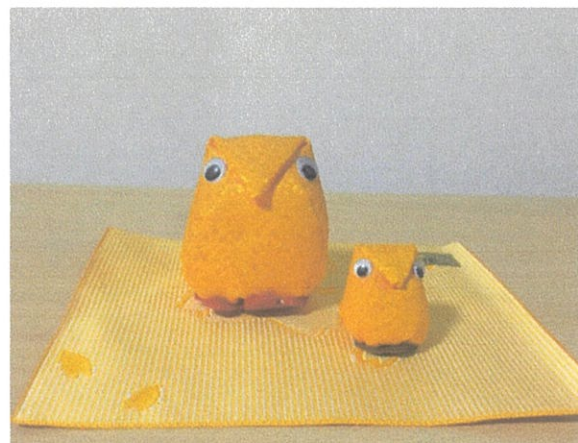
福島県外の先生方も感動し、卒業
ソングの定番にもなりそう…。

小高中は、4月から本校舎へ。

いろいろ不安はあるよね…でも、

群青の町に…子ども達の声が

ひびくのですね。



86歳…叔母の手作り